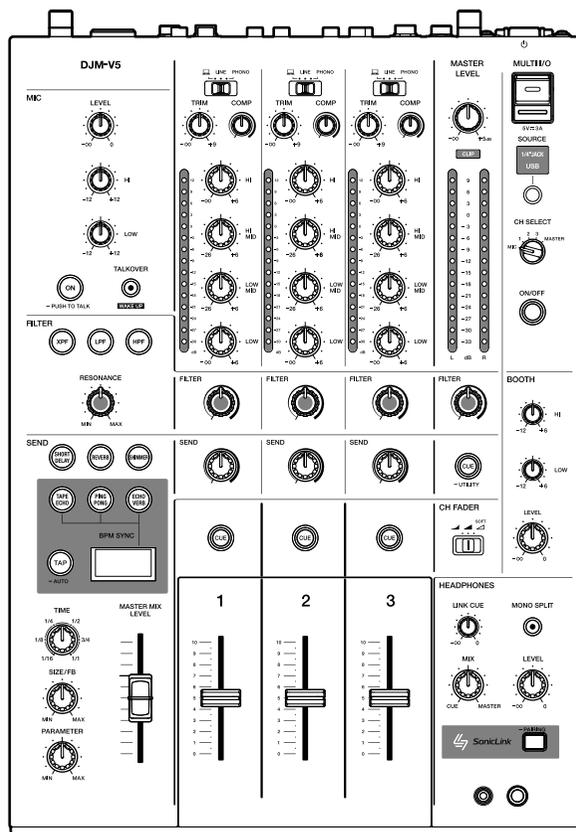


取扱説明書



DJ ミキサー

DJM-V5

alphatheta.com/support/Japan/

rekordbox.com

上記のサイトで、本製品の最新のソフトウェア情報やFAQなどのサポート情報をご覧いただけます。

もくじ

はじめに	5
本書の見かた	5
同梱品の確認	5
対応アプリケーションのインストール	6
対応製品について	7
PRO DJ LINK について	8
各部の名称	9
コントロールパネル	9
本体フロント部	10
本体リア部	11
PC/Mac の準備	14
専用ソフトウェアのインストール	14
設定ユーティリティを使う	16
接続	22
入力端子に接続する	23
出力端子に接続する	24
コントロールパネルの端子に接続する	25
MULTI I/O を使う	26
音声出力	27
チャンネル/マスターセクション	27
音声を出力する	29
チャンネル音声の音質を調整する	30
フェーダーカーブを設定する	30
音声の左右バランスを調整する	31
音声モニター	32
HEADPHONES セクション	32

ヘッドホンで音声をモニターする	33
SonicLink ヘッドホンで音声をモニターする	34
BOOTH セクション	35
ブースモニターを使う	35
マイク	36
MIC セクション	36
マイクを使う	37
FILTER	38
FILTER セクション	38
FILTER を使う	39
SEND	40
SEND セクション	40
本体表示部	41
マスター音声にエフェクト音を入力する	42
BPM を手動で設定する	43
SEND の種類と設定方法	44
MULTI I/O	46
MULTI I/O セクション	47
MULTI I/O を使う	48
USB/MIDI	49
MIDI 対応ソフトウェアを操作する	49
設定	50
設定を変更する	50
UTILITY 設定項目	51
MY SETTINGS 設定項目	54
MY SETTINGS を記録メディアに保存する	56
記録メディアから MY SETTINGS を読み込む	57
初期設定に戻す	58
スペック	59

仕様.....	59
ブロックダイアグラム	64
その他.....	66
故障かな？と思ったら	66
クリーニングについて	69
商標および登録商標について	69
ソフトウェアライセンス.....	70
著作権	74

はじめに

本書の見かた

- このたびは、AlphaTheta 製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本書と、本機に付属している「クイックスタートガイド」および「使用上のご注意」を必ずお読みください。すべて、この製品の使用前にご理解いただくべき重要事項が含まれています。
- 本書では、製品本体、PC/Mac 画面、およびモバイルデバイス画面に表示されるメニュー名、ボタン名および端子名などを、[] で囲んで記載しています。(例：[ファイル]、[CUE] ボタン)
- 本書で説明しているソフトウェアの画面と仕様、およびハードウェアの外観と仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書で説明している手順については、OS のバージョン、ウェブブラウザの設定などにより記載の動作と異なる場合があります。
- 本書で説明しているソフトウェアの画面の言語が、実際の画面の言語と異なる場合があります。

同梱品の確認

- ミキサー × 1
- 電源コード × 1
- 保証書（一部の地域）* × 1
- クイックスタートガイド × 1
- 使用上のご注意 × 1

* 欧州向け、北米地域向け製品のみ。(日本向けは「使用上のご注意」に記載されています。)

対応アプリケーションのインストール

❖ rekordbox for Mac/Windows

rekordbox for Mac/Windows は、楽曲管理と DJ パフォーマンスができる DJ アプリケーションです。本機とは、PRO DJ LINK 接続や DVS 機能を使用した DJ パフォーマンスをすることができます。

インストールおよびマニュアルについては、下記のサイトをご確認ください。

rekordbox.com/

❖ rekordbox for iOS/Android

rekordbox for iOS/Android は、楽曲管理と DJ パフォーマンスができるモバイルデバイス用の DJ アプリケーションです。本機とは、PRO DJ LINK 接続をすることができます。以下からダウンロードできます。

iOS/iPadOS :

<https://apps.apple.com/jp/app/id1487048203>

Android :

<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.pioneerdj.rekordbox>

❖ DJM-REC

DJM-REC は、AlphaTheta 社製の DJ ミキサーと USB ケーブル1本で接続して、DJ ミックスをライブ配信・録音したり、世界中にプロモーションすることができる DJ 向けライブ配信・録音アプリケーションです。

以下からダウンロードできます。

iOS/iPadOS :

<https://apps.apple.com/jp/app/id1292535659>

- Android には対応していません。

❖ RMX-1000 for iPad

RMX-1000 for iPad は、iPad を使った楽曲制作において、個性的で多彩なアレンジを加えることができる iPad 用アプリケーションです。

以下からダウンロードできます。

iOS/iPadOS :

<https://apps.apple.com/jp/app/id1035498886>

対応製品について

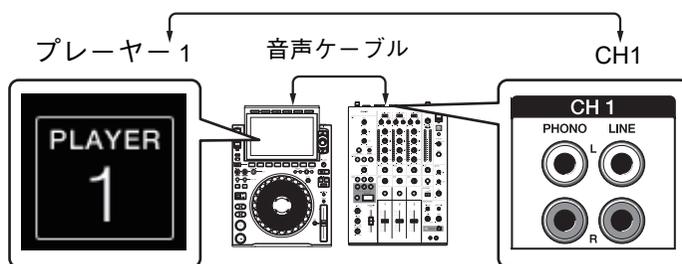
今後発売予定（2025年11月現在）の下記の製品は、本機と簡単に接続できます。

- USB接続に対応したAlphaTheta製エフェクター：
USBケーブルのみで本機と接続できます（アナログケーブルでの接続が不要）。
- タッチペアリングに対応したAlphaTheta製SonicLinkヘッドホン：
本機にヘッドホンをタッチするだけで、SonicLinkペアリングできます。

PRO DJ LINK について

PRO DJ LINK 対応のマルチプレーヤーや、rekordbox がインストールされている PC/Mac と本機を LAN ケーブルで接続すると、PRO DJ LINK 機能を利用できます。

- スイッチングハブを使って接続すると、マルチプレーヤーを3台まで、PC/Macは2台まで接続できます。
- 100BASE-TX対応で、マルチプレーヤーにも対応のスイッチングハブを使用してください。スイッチングハブによっては正常に動作しないことがあります。
- マルチプレーヤーのプレーヤー番号は、音声ケーブルを接続したチャンネルと同じ番号に設定してください。



- PRO DJ LINK については、マルチプレーヤーの取扱説明書と rekordbox の操作説明書も参照してください。

alphatheta.com/support/Japan/

❖ LINK MONITOR

rekordbox for Mac/Windows やマルチプレーヤーの楽曲を再生中にもブラウジングができ、ブラウジング中の楽曲や再生中以外の音声をヘッドホンでモニターできます。

⇒ [「ヘッドホンで音声をモニターする」](#) (33 ページ)

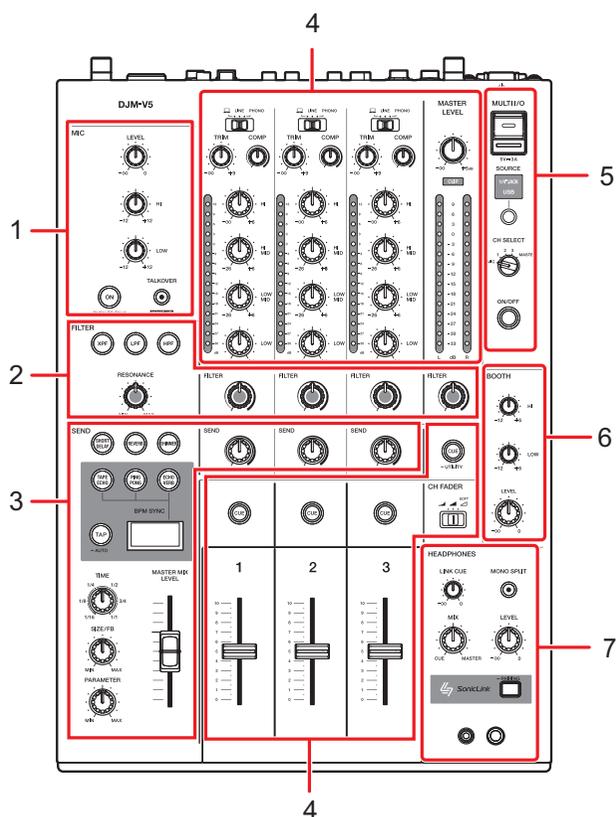
- rekordbox for Mac/Windows の音声をモニターするには、あらかじめ rekordbox for Mac/Windows を EXPORT モードに切り替え、[環境設定] をクリックし、左側の [DJ システム] タブを選択します。右上の [その他] タブを開いて、[DJ ミキサーの「LINK MONITOR」機能を使用する] をオンにしてください。
- マルチプレーヤーが LINK MONITOR 機能に対応していない場合は、マルチプレーヤーの音声をモニターすることはできません。

❖ STATUS INFORMATION

マルチプレーヤー上でオンエア状況を確認できます。

各部の名称

コントロールパネル



1. **MIC** セクション
⇒ 「MICセクション」 (36 ページ)
2. **FILTER** セクション
⇒ 「FILTERセクション」 (38 ページ)
3. **SEND** セクション
⇒ 「SENDセクション」 (40 ページ)
4. **チャンネル/マスター** セクション
⇒ 「チャンネル/マスターセクション」 (27 ページ)
5. **MULTI I/O** セクション
⇒ 「MULTI I/Oセクション」 (47 ページ)

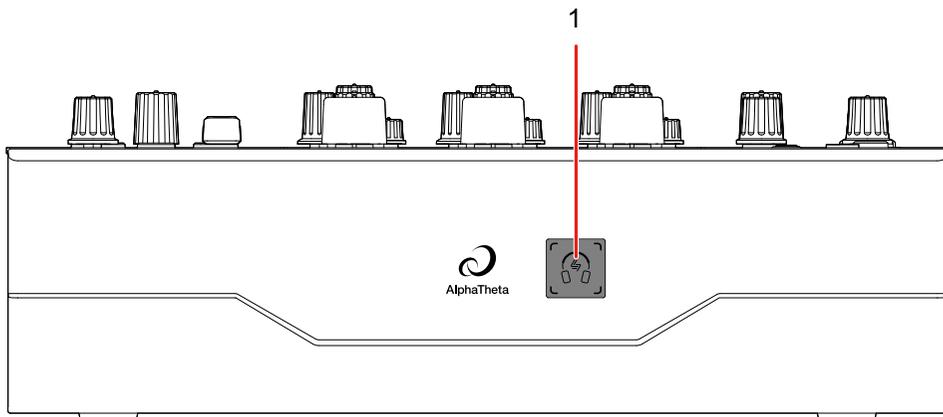
6. BOOTH セクション

⇒ [「BOOTH セクション」](#) (35 ページ)

7. HEADPHONES セクション

⇒ [「HEADPHONES セクション」](#) (32 ページ)

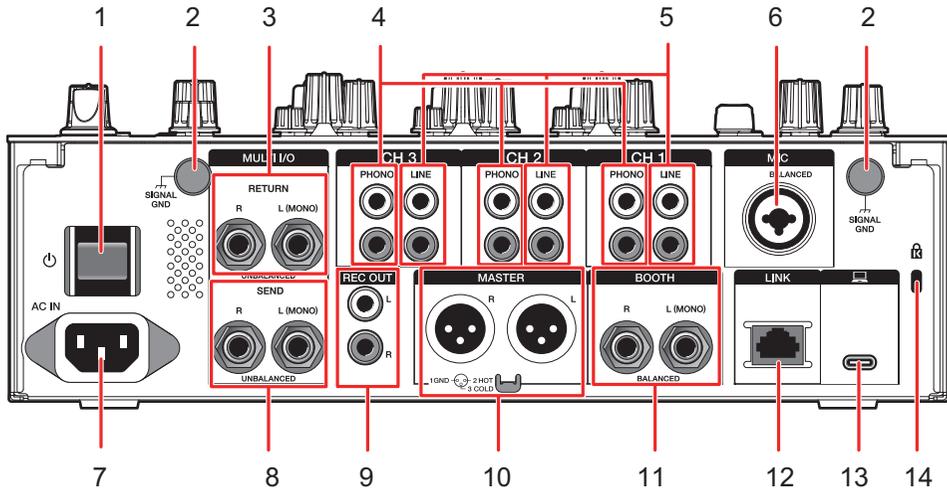
本体フロント部



1. ヘッドホンタッチエリア

⇒ [「SonicLinkヘッドホンで音声をモニターする」](#) (34 ページ)

本体リア部



1. 電源ボタン

本機の電源のオン/オフを切り替えます。

△ 注意

製品の仕様により、本体部やリモコン（付属の場合）のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ（遮断装置）に容易に手が届くように設置してください。電源プラグを長時間差したままにすると、火災の原因となることがあります。

2. SIGNAL GND 端子

ターンテーブルのアース線を接続します。ターンテーブル接続時の雑音を低減します。

⇒ 「入力端子に接続する」(23 ページ)

3. MULTI I/O, RETURN 端子 (1/4"/6.35 mm、TS)

外部エフェクターの出力端子を接続します。

- [L (MONO)] だけに接続すると、[L (MONO)] に入力される音声は [R] にも入力されます。

⇒ 「MULTI I/O を使う」(26 ページ)

4. PHONO 端子 (RCA)

フォノレベル (MM カートリッジ用) の出力機器を接続します。

- ラインレベルの信号を入力しないでください。

⇒ 「入力端子に接続する」 (23 ページ)

5. LINE 端子 (RCA)

マルチプレーヤーやラインレベルの出力機器を接続します。

⇒ 「入力端子に接続する」 (23 ページ)

6. MIC 端子 (XLR または 1/4"/6.35 mm、TRS)

⇒ 「マイクを使う」 (37 ページ)

7. AC IN

付属の電源コードで、コンセントと接続します。

⇒ 「入力端子に接続する」 (23 ページ)

8. MULTI I/O, SEND 端子 (1/4"/6.35 mm、TS)

外部エフェクターの入力端子と接続します。

- [L (MONO)]端子のみ接続すると、モノラル音声を出力します。

⇒ 「MULTI I/Oを使う」 (26 ページ)

9. REC OUT 端子 (RCA)

録音用の出力端子です。

- パワーアンプなどへの出力端子として設定することもできます。

⇒ 「出力端子に接続する」 (24 ページ)

10. MASTER 端子 (balanced XLR)

パワーアンプなどのアナログ入力端子と接続します。

- 必ずバランス出力として使用してください。
- ほかの製品の電源コードを接続しないように注意してください。
- ファンタム電源が供給できる端子を接続しないでください。

⇒ 「出力端子に接続する」 (24 ページ)

11. BOOTH 端子 (1/4"/6.35 mm、TRS)

ブースモニター用の出力端子です。

- 必ずバランス出力として使用してください。
- [L (MONO)]端子のみ接続すると、モノラル音声を出力します。

⇒ 「出力端子に接続する」 (24 ページ)

12. LINK 端子

rekordbox がインストールされている PC/Mac、または PRO DJ LINK 対応のマルチプレーヤーの LINK 端子と接続します。

- 複数の機器と接続するときは、スイッチングハブ (市販/100BASE-TX 対応) を使用してください。

⇒ 「入力端子に接続する」 (23 ページ)

13. USB 端子

PC/Macと接続します。

⇒ [「入力端子に接続する」](#) (23 ページ)

14. ケンジントンロック装着用穴

盗難防止用のワイヤーロックを装着します。

PC/Macの準備

本機にPC/Macの音声を入力/出力する場合は、お使いのPC/Macにあらかじめ専用オーディオドライバーソフトウェア/設定ユーティリティをインストールしてください。

PC (Windows) をお使いの場合は、専用ソフトウェアをインストールすると、専用オーディオドライバーソフトウェアおよび設定ユーティリティが同時にインストールされます。

Macをお使いの場合は、設定ユーティリティのみインストールされます。

- 最新の動作環境、互換性、および対応OSに関する情報は、下記のAlphaThetaサイトを参照してください。

alphatheta.com/support/Japan/

- 動作環境を満たしているすべての機器における動作を保障するものではありません。
- 1台のPC/Macに、本機を複数台接続した場合の動作は保証しません。
- 専用オーディオドライバーソフトウェアがインストールされていないPC (Windows) を本機に接続すると、環境によってはPCにエラーが発生することがあります。
- お使いのPC/Mac上のソフトウェアとの組み合わせによっては、動作に不具合が発生することがあります。

専用ソフトウェアのインストール

❖ インストールについてのご注意

- インストールする前に、本機の電源をオフにし、本機とPC/Macを接続しているUSBケーブルを取り外してください。
- インストールする前に、PC/Mac上のすべてのアプリケーションを終了してください。
- 専用ソフトウェアをお使いのPC/Macにインストールするには、管理者権限が必要です。
- インストールする前に、「ソフトウェア使用許諾契約書」をよくお読みください。
- インストールを途中で中止したときは、はじめからインストールをやり直してください。
- インストールが完了するまでは、本機とPC/Macを接続しないでください。
- すべてのPC/Mac環境において動作保証するものではありません。

専用ソフトウェアを入手する

1 下記のサイトにアクセスする

alphatheta.com/support/Japan/

2 [ソフトウェア更新情報]をクリックする

3 [DJ ミキサー]カテゴリー内の[DJM-V5]をクリックする

4 [Drivers]をクリックする

5 [ダウンロードリンク]をクリックして、ファイルを保存する

- お使いのPC/Macによって、PC (Windows)またはMacのいずれかの専用ソフトウェアをダウンロードしてください。

専用ソフトウェアをインストールする

1 ダウンロードした専用ソフトウェアを解凍する

2 インストールファイルをダブルクリックする

- PC (Windows)をお使いの場合は“DJM-V5_#.###.exe”を、Macをお使いの場合は“DJM-V5_M_###.dmg”→“DJM-V5SettingUtility.pkg”をダブルクリックしてください（#は専用ソフトウェアのバージョン表示）。

3 「ソフトウェア使用許諾契約書」をよく読み、「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意するときは、[同意する]にチェックを入れて[OK]をクリックする

- 「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意しないときは、[同意しない] (Macの場合) / [キャンセル] (Windowsの場合) をクリックして、インストールを中止してください。

4 画面の指示にしたがって、インストールする

設定ユーティリティを使う

PC/Macにインストールされている設定ユーティリティを使って、本機とPC/Macの接続の設定や確認ができます。

設定ユーティリティを表示する

❖ Macをお使いの場合

- 1 Finderで[アプリケーション]フォルダーを開く
- 2 [AlphaTheta] → [DJM-V5] → [DJM-V5 設定ユーティリティ]をクリックする

❖ PC (Windows 11)をお使いの場合

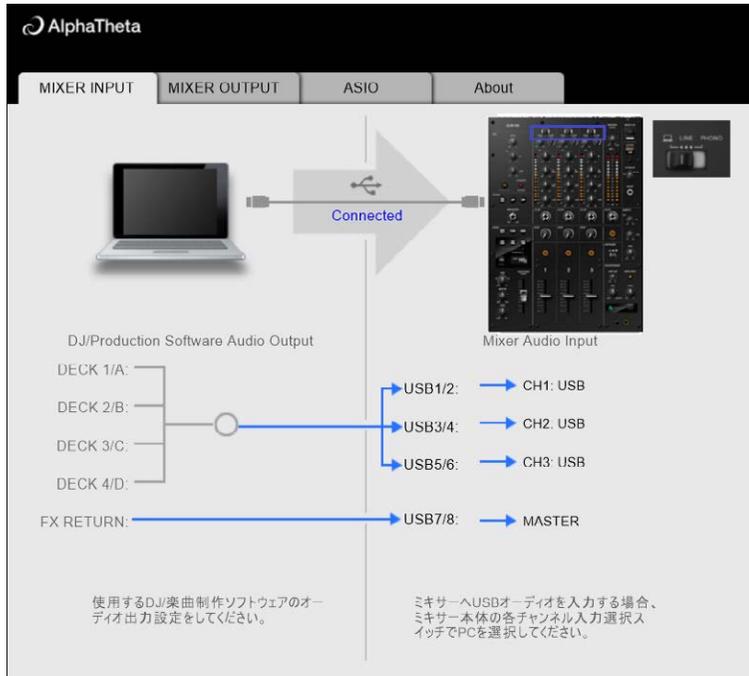
- 1 スタートメニューから[全てのアプリ] → [AlphaTheta] → [DJM-V5 設定ユーティリティ]をクリックする

❖ PC (Windows 10)をお使いの場合

- 1 スタートメニューから [AlphaTheta] → [DJM-V5 設定ユーティリティ]をクリックする

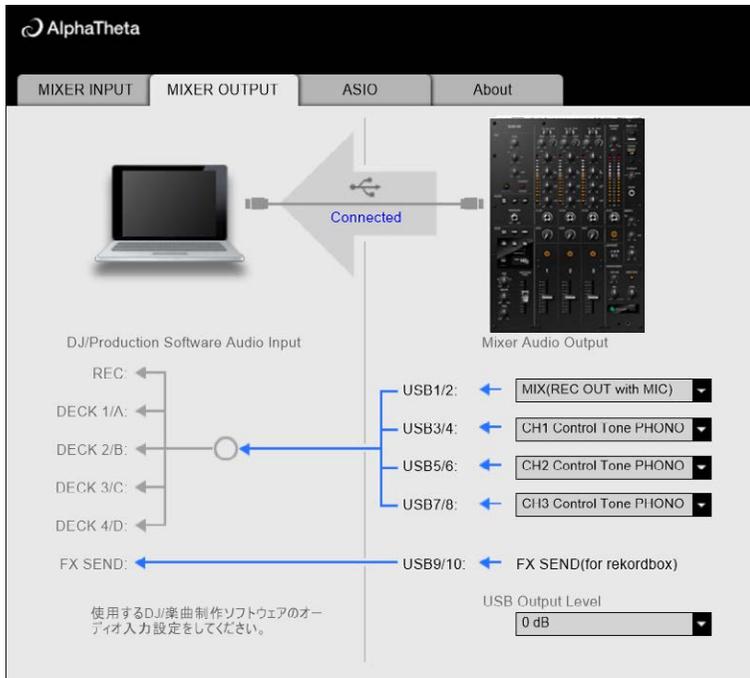
本機の入力切替えスイッチの状態を確認する

1 [MIXER INPUT] タブをクリックする



本機からPC/Macへの音声データ出力を設定する

- 1 [MIXER OUTPUT] タブをクリックする
- 2 [Mixer Audio Output] のプルダウンメニューをクリックし、本機からPC/Macへ出力する音声を選択する



⇒ 「Mixer Audio Outputのプルダウンリスト一覧」 (21 ページ)

- 3 [USB Output Level] のプルダウンメニューをクリックし、本機から出力する音量を選択する

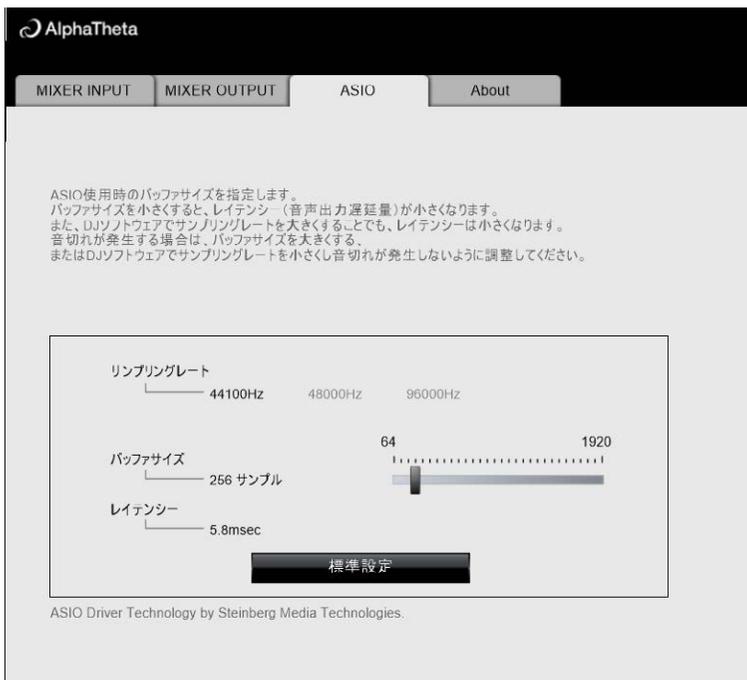
- DJソフトウェアの音量調節で十分な音量が得られないときは、[USB Output Level] で音量を調節します。音量を上げすぎると音声が歪むことがあります。ご注意ください。

バッファサイズを調整する (Windows ASIO 使用時)

- 本機を既定のオーディオデバイスとして利用しているアプリケーション (DJソフトウェアなど) が起動している場合は、終了してからバッファサイズを調整してください。

1 [ASIO] タブをクリックする

2 スライダーでバッファサイズを調整する



- バッファサイズを大きくすると、音声データの脱落 (音とぎれ) などは発生しにくくなりますが、音声データの伝送遅延 (レイテンシー) によるタイムラグが増大します。

ファームウェアとドライバーソフトウェアのバージョンを確認する

1 [About] タブをクリックする



Mixer Audio Output のプルダウンリスト一覧

- USB9/10 は、[FX SEND (for rekordbox)] 固定です（対応ソフトウェアで使用可能です）。
#：チャンネル番号

USB 1/2	USB 3/4、USB 5/6、USB 7/8
MIX (REC OUT with MIC) ^{*1}	CH# Control Tone PHONO ^{*2}
Pre CH1 Fader	CH# Control Tone LINE ^{*2}
Pre CH2 Fader	Pre CH# Fader
Pre CH3 Fader	Post CH# Fader
Post CH1 Fader	MIC
Post CH2 Fader	MIX (REC OUT with MIC) ^{*1}
Post CH3 Fader	MIX (REC OUT without MIC) ^{*1}
MIC	-
MIX (REC OUT without MIC) ^{*1}	-

*1 録音用途以外で使用するときは、音声のループが発生しないよう DJ ソフトウェアの設定に注意してください。音声のループが発生すると、意図していない音量の音声が入出力される可能性があります。

*2 対応ソフトウェアで使用可能です。[USB Output Level] の設定に関係なく、本機に入力された音量のまま出力されます。

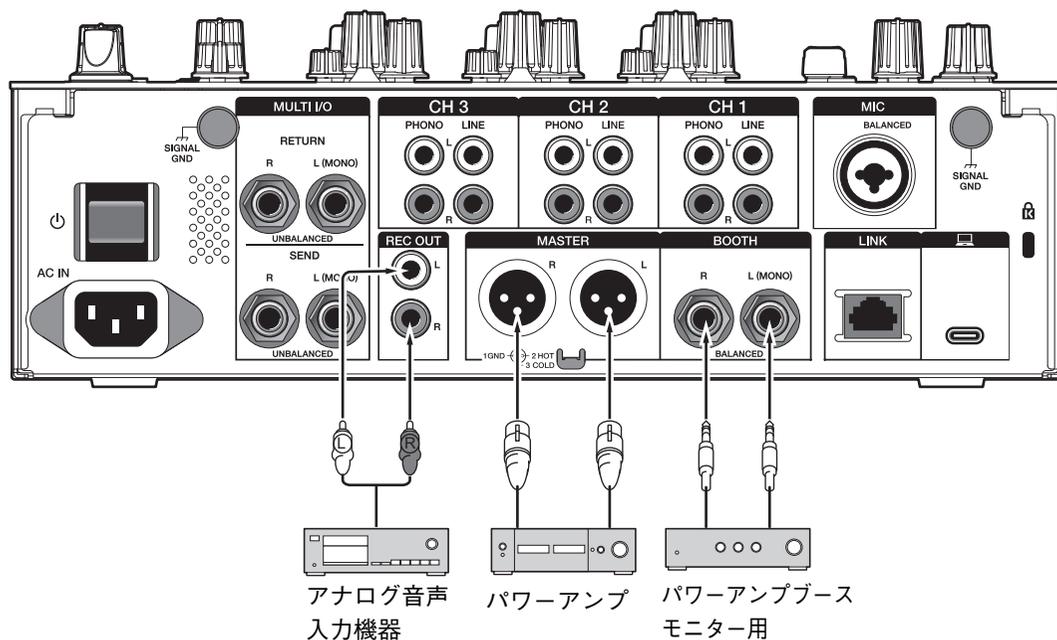
接続

接続を行う前に、必ず本機の電源をオフにし、電源コードを抜いてください。

電源コードは、すべての接続が完了してから接続してください。

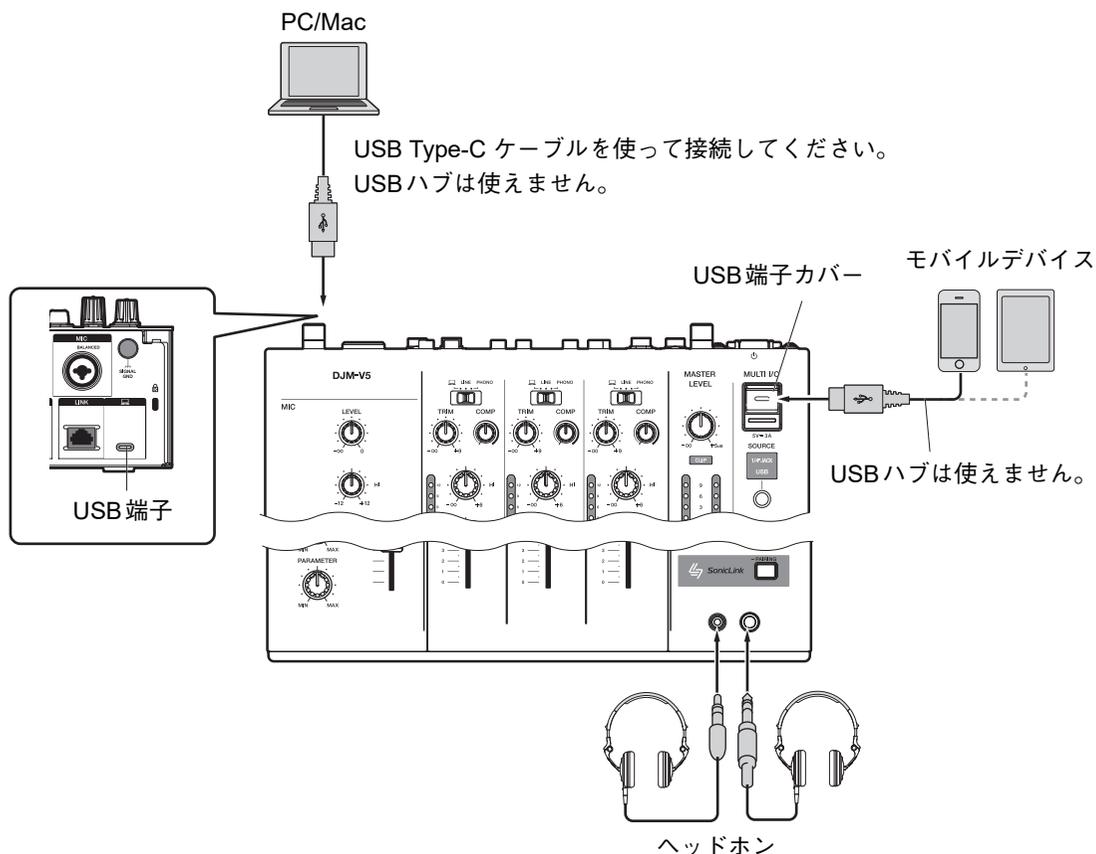
- 付属の電源コードを使用してください。
- 接続する機器の取扱説明書も参照してください。
- LANケーブルを使って接続するときは、STP（CAT5eシールドケーブル）を使用してください。
- PRO DJ LINKを使用しているときは、LANケーブルを取り外さないでください。

出力端子に接続する



- **[MASTER]** 端子は、必ずバランス出力として使用してください。XLR-RCA 変換ケーブル（変換アダプター）などを使ってアンバランス入力（RCA など）へ接続すると、音質が悪くなったり、ノイズが発生することがあります。
- **[BOOTH]** 端子は、必ずバランス出力として使用してください。アンバランス入力へ接続すると、音質が悪くなったり、ノイズが発生することがあります。
- **[MASTER]** 端子にほかの製品の電源コードや、ファンタム電源が供給できる端子を接続しないように注意してください。

コントロールパネルの端子に接続する



- 本機にPC/Macの音声を入力/出力する場合は、お使いのPC/Macにあらかじめ専用ソフトウェアをインストールしてください。
⇒ [「専用ソフトウェアのインストール」](#) (14 ページ)
- USB端子カバーを強く押ししたり、引っ張ったりしないでください。破損の原因となります。
- モバイルデバイスを接続する場合は、モバイルデバイスに付属のケーブルを使用してください。
- 本機に接続可能なモバイルデバイスについては、下記のAlphaThetaサイトを参照してください。

alphatheta.com/support/Japan/

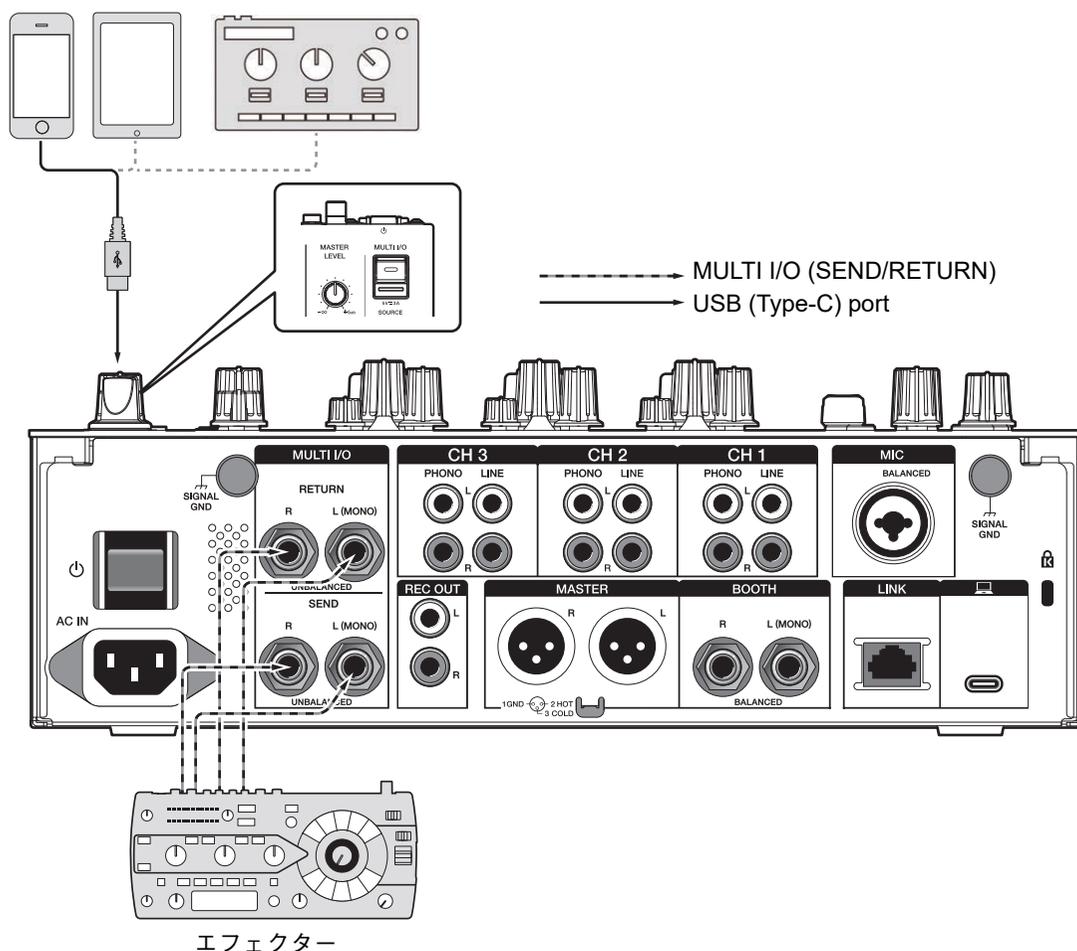
- エフェクターをUSBケーブルで接続する場合は、3 m以下のUSBケーブルを使用してください。
- ヘッドホンはフォーンジャックまたはミニジャックのどちらか一方に接続してください。両方の端子を同時に使用すると、音質が悪くなったり、音量が小さくなったりする場合があります。

MULTI I/O を使う

- MULTI I/O で外部エフェクターやモバイルデバイスを使用することができます。以下のとおりに接続してください。
 - [MULTI I/O, SEND] 端子 (出力端子) → エフェクター → [MULTI I/O, RETURN] 端子 (入力端子)
 - MULTI I/O USB 端子 (入出力端子) → モバイルデバイス
 - MULTI I/O USB 端子 (入出力端子) → USB 接続に対応したエフェクター

モバイルデバイス

エフェクター



エフェクター

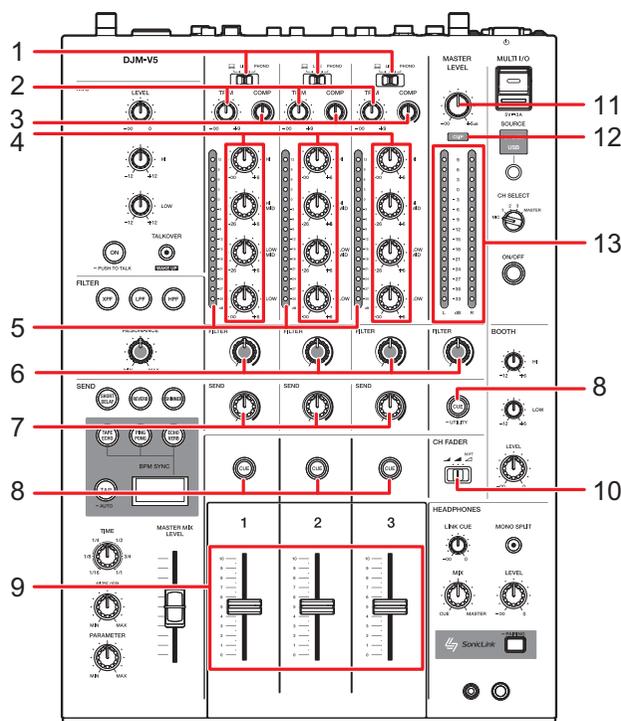
⇒ [MULTI I/O] (46 ページ)

音声出力

以下の操作を行って、音声を出力します。

- 「音声を出力する」 (29 ページ)
 - 「チャンネル音声の音質を調整する」 (30 ページ)
 - 「フェーダーカーブを設定する」 (30 ページ)
 - 「音声の左右バランスを調整する」 (31 ページ)
- **[BOOTH]**端子から音声を出力する方法については、「ブースモニターを使う」 (35 ページ) を参照してください。

チャンネル/マスターセクション



❖ チャンネルセクション

1. 入力切替えスイッチ

入力音声を選択します。

- **[]** : **[USB]**端子に接続しているPC/Mac

- [LINE] : [LINE]端子に接続しているマルチプレーヤーなど
 - [PHONO] : [PHONO]端子に接続しているターンテーブル
- ⇒ 「[音声を出力する](#)」 (29 ページ)

2. TRIM ノブ

チャンネルの入力音声の音量を調節します。

3. COMP ノブ

音圧を調節します。

右に回すと音圧が増し、左に回しきると原音となります。

4. EQ (HI, HI MID, LOW MID, LOW) ノブ

各音域の音質を調整します。

各ノブで調整できる音域は以下のとおりです。

- [HI] : $-\infty$ dB ~ +6 dB
- [HI MID] : -26 dB ~ +6 dB
- [LOW MID] : -26 dB ~ +6 dB
- [LOW] : $-\infty$ dB ~ +6 dB

5. チャンネルレベルインジケーター

チャンネルフェーダー通過前の音量を表示します。

6. FILTER ノブ

⇒ 「[FILTER を使う](#)」 (39 ページ)

7. SEND ノブ

⇒ 「[マスター音声にエフェクト音を入力する](#)」 (42 ページ)

8. CUE ボタン

⇒ 「[ヘッドホンで音声をモニターする](#)」 (33 ページ)

9. チャンネルフェーダー

[CH FADER] 切替スイッチで指定されているカーブ特性にしたがって、音声を出力します。奥側へスライドすると音量が上がり、手前へスライドすると音量が下がります。

⇒ 「[フェーダーカーブを設定する](#)」 (30 ページ)

10. CH FADER 切替えスイッチ

⇒ 「[フェーダーカーブを設定する](#)」 (30 ページ)

❖ MASTER セクション

11. MASTER LEVEL ノブ

マスター音声の音量を調節します。

12. CLIP インジケーター

[MASTER] 端子から過大音量が出力された場合に点滅します。

13. マスターレベルインジケータ

[MASTER]端子に出力するマスター音声の音量を表示します。

音声を出力する

チャンネル入力音量を調節する

- 1 入力切替えスイッチをスライドして、入力音声を選択する
- 2 [TRIM]ノブを回して、入力音声の音量を調節する

音声が入力されると、チャンネルレベルインジケータが点灯します。

チャンネル出力音量を調節する

- 1 チャンネルフェーダーを動かして、出力音声の音量を調節する

マスター音量を調節する

- 1 [MASTER LEVEL]ノブを回して、マスター音声の音量を調節する

マスター音声が出力されると、マスターレベルインジケータが点灯します。

チャンネル音声の音質を調整する

- 1 [EQ (HI, HI MID, LOW MID, LOW)]ノブを回して、各音域の音質を調整する
- 2 [COMP]ノブを回して、音圧を調節する

フェーダーカーブを設定する

チャンネルフェーダーカーブを設定します。

1 [CH FADER]切替えスイッチで、カーブの特性を選択する

- : 奥側で急峻に音が立ち上がります。
- : 奥側にスライドすると、徐々に音が立ち上がります。
- : 奥側にスライドすると、フィルターを開きながら徐々に音が立ち上がります。

音声の左右バランスを調整する

以下の端子から出力する音声の左右バランスを調整します。

- [MASTER] 端子
 - [BOOTH] 端子
 - [REC OUT] 端子
 - USB 端子
 - [PHONES] 端子
- USB 端子から出力される音声の左右バランスは、設定ユーティリティの **[Mixer Audio Output]** で **[MIX (REC OUT with MIC)]** または **[MIX (REC OUT without MIC)]** を選択しているときだけ調整できます。
⇒ [「Mixer Audio Output」のプルダウンリスト一覧](#) (21 ページ)

1 [MASTER CUE (UTILITY)] ボタンを1秒以上押す

[UTILITY]画面が表示されます。

2 [BALANCE] を選択して、CH2の[CUE] ボタンを押す

[BALANCE]画面が表示されます。



3 CH1/CH3の[CUE] ボタンを押して左右のバランスを調整する

- [L] の位置（左端）に設定するとステレオ音声の左側音声だけが、[R] の位置（右端）に設定するとステレオ音声の右側音声だけが出力されます。

4 CH2の[CUE] ボタンを押す

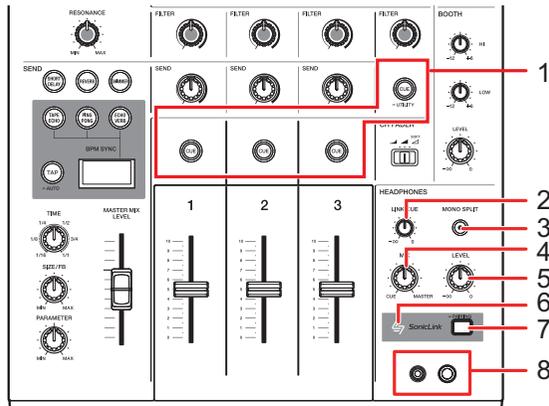
- 設定をキャンセルするにはMASTERの[CUE] ボタンを押します。

5 MASTERの[CUE] ボタンを押す

[UTILITY]画面が閉じます。

音声モニター

HEADPHONES セクション



1. CUE ボタン

[PHONES]端子およびSonicLinkで接続しているヘッドホンに音声を出力します。

2. LINK CUE ノブ

LINK MONITORの音量を調節します。

3. MONO SPLIT ボタン

ヘッドホンへの出力音声 (MONO SPLIT/ステレオ) を選択します。ボタンが点灯しているときは、ヘッドホンの左チャンネルから[CUE]ボタンが押されているチャンネルの音声を、右チャンネルから[MASTER]チャンネルの音声を出力します。ボタンが消灯しているときは、[CUE]ボタンが押されているチャンネルの音声をステレオ出力します。

4. MIX ノブ

[CUE]ボタンが押されているチャンネルとマスター音声の音量バランスを調整します。

5. LEVEL ノブ

ヘッドホンから出力する音量を調節します。

6. SonicLink ヘッドホンインジケータ

⇒ [「SonicLink ヘッドホンで音声をモニターする」](#) (34 ページ)

7. PAIRING ボタン

SonicLink ヘッドホンと接続します。

⇒ [「SonicLink ヘッドホンで音声をモニターする」](#) (34 ページ)

8. PHONES 端子

ヘッドホンを接続します。

ヘッドホンで音声をモニターする

1 [PHONES] 端子にヘッドホンを接続する

⇒ 「コントロールパネルの端子に接続する」 (25 ページ)

2 [CUE] ボタンを押す、または [LINK CUE] ノブを回して、モニターする音声を選択する

3 [MONO SPLIT] ボタンを押して、出力音声 (MONO SPLIT/ステレオ) を選択する

4 [MIX] ノブを回して、[CUE] ボタンが押されているチャンネルとマスター音声の音量バランスを調整する

5 [LEVEL] ノブを回して、[CUE] ボタンが押されているチャンネルの音量を調節する

- もう一度[CUE] ボタンを押すと、音声モニターがオフになります。

SonicLink ヘッドホンで音声をモニターする

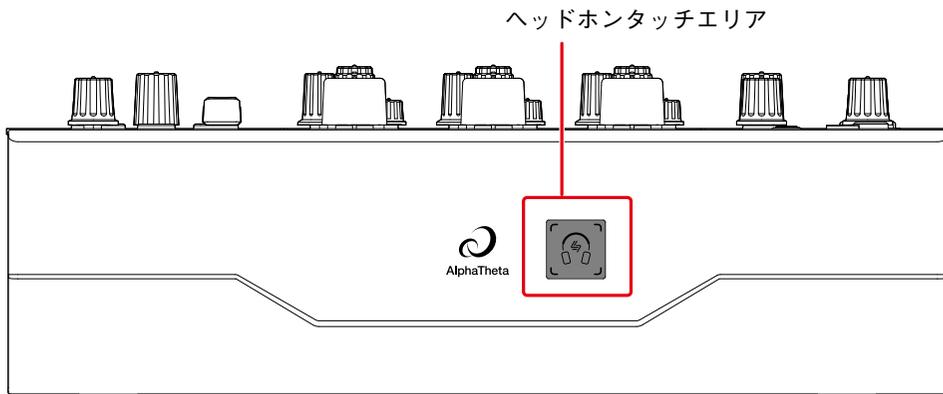
1 UTILITY設定で、[SONICLINK]を[ON]に設定する

⇒ 「UTILITY設定項目」(51 ページ)

2 SonicLinkヘッドホンの電源を入れて、ペアリング状態にする

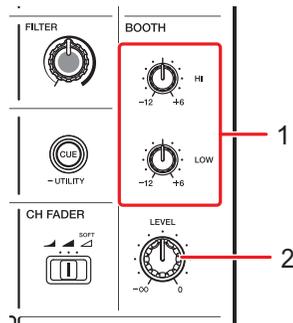
- タッチペアリング対応の SonicLink ヘッドホンをお機にタッチして使用する場合は、ヘッドホンの電源を入れる必要はありません。
- SonicLinkヘッドホンの操作については、SonicLinkヘッドホンに付属の取扱説明書を参照してください。

3 [PAIRING] ボタンを長押し、または本体フロント部のヘッドホンタッチエリアにタッチペアリング対応のSonicLinkヘッドホンを一定時間かざす



- [PAIRING] ボタンを長押しすると、本機がペアリング待機状態になります。
- ペアリング待機中は、SonicLink ヘッドホンインジケータが高速で点滅します。ペアリング完了後はインジケータが点灯に変わります。
- 本機は最後にペアリングしたSonicLinkヘッドホンを記憶しており、次回使用する際に[PAIRING] ボタンを長押ししなくても、自動的にペアリングします。
- タッチペアリング対応SonicLinkヘッドホン側のタッチエリアについては、ヘッドホンに付属の取扱説明書を参照してください。

BOOTH セクション



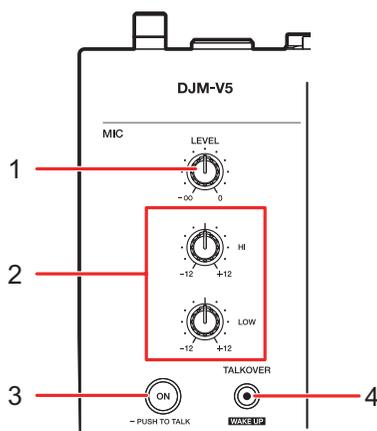
1. **EQ (HI, LOW) ノブ**
各音域の音質を調整します。
各ノブで調整できる音域は以下のとおりです。
 - [HI] : -12 dB ~ +6 dB
 - [LOW] : -12 dB ~ +6 dB
2. **LEVEL ノブ**
ブースモニター音声の音量を調節します。

ブースモニターを使う

- 1 [BOOTH] 端子にブースモニター用の機器を接続する
⇒ 「出力端子に接続する」 (24 ページ)
- 2 [LEVEL] ノブを回して、出力音声の音量を調節する
- 3 [EQ (HI, LOW)] ノブを回して、各音域の音質を調整する

マイク

MIC セクション



1. LEVEL ノブ

[MIC]端子から入力する音量を調節します。

2. EQ (HI, LOW) ノブ

[MIC]端子から入力する音声の音質を調整します。

各ノブで調整できる音域は以下のとおりです。

- [HI] : -12 dB ~ +12 dB
- [LOW] : -12 dB ~ +12 dB

3. ON ボタン

マイク音声出力のオン/オフを切り替えます。オンのときにボタンが点灯します。

長押しすると、ボタンを押している間マイクがオンになり、離すとオフになります (プッシュトゥーク機能)。

4. TALKOVER (WAKE UP) ボタン

トークオーバーのオン/オフを切り替えます。オンのときにボタンが点灯します。

オンのときにマイクに音声が入力されると、マイクチャンネル以外の音量が減衰します。

- トークオーバーモードはMY SETTINGSの[TALKOVER MODE]で変更できます。
⇒ [TALKOVER MODE] (54 ページ)
- 音声減衰レベルはMY SETTINGSの[TALKOVER LEVEL]で変更できます。
⇒ [TALKOVER LEVEL] (54 ページ)

マイクを使う

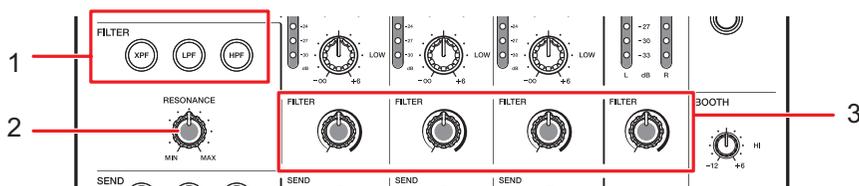
- 1 **[MIC]**端子にマイクを接続する
⇒ 「入力端子に接続する」(23 ページ)
- 2 **[TALKOVER (WAKE UP)]** ボタンを押して、トークオーバーのオン/オフを設定する
- 3 **[ON]** ボタンを押して、マイクをオンにする
- 4 **[LEVEL]** ノブを回して、マイク音声の音量を調節する
 - 右に回しすぎると、大音量で出力されます。ご注意ください。
- 5 **[EQ (HI, LOW)]** ノブを回して、各音域の音質を調整する
- 6 マイクに音声を入力する

FILTER

カットオフ周波数を変化させます。

チャンネル1～3およびマスターに同じフィルターが設定されます。

FILTER セクション



1. FILTER (XPF, LPF, HPF) ボタン

使用するフィルターを選択します。選択されているボタンが点滅します。

- [XPF] : CROSS PASS FILTER (低域をカットしないHIGH PASS FILTER)
- [LPF] : LOW PASS FILTER
- [HPF] : HIGH PASS FILTER

2. RESONANCE ノブ

レゾナンスを調整します。右に回すと、レゾナンスが増えます。

3. FILTER ノブ

カットオフ周波数を調整します。

選択されている [FILTER (XPF, LPF, HPF)] ボタンによって、以下のように変化します。

- [XPF] : 右に回すと、カットオフ周波数が上がります。
- [LPF] : 右に回すと、カットオフ周波数が下がります。
- [HPF] : 右に回すと、カットオフ周波数が上がります。

FILTER を使う

1 [FILTER (XPF, LPF, HPF)] ボタンを押して、フィルターを選択する

- すでにいずれかのボタンが選択されているときは、あとから押したボタンのフィルターに切り替わります。

2 [FILTER] ノブを回して、カットオフ周波数を調整する

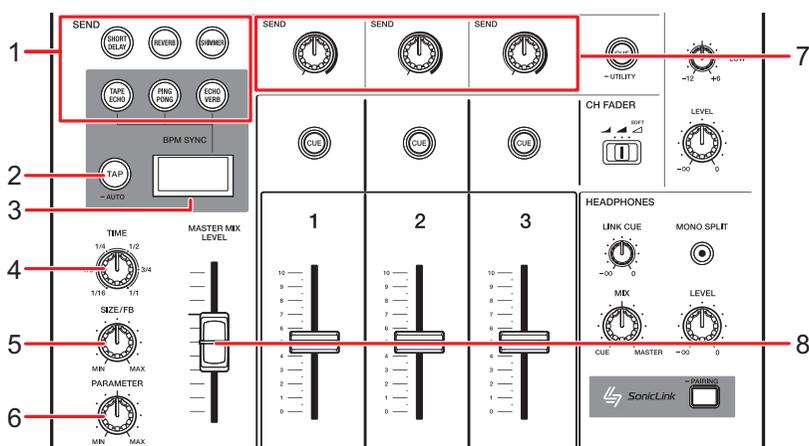
3 [RESONANCE] ノブを回して、レゾナンスを調整する

- 点滅している [FILTER (XPF, LPF, HPF)] ボタンを押すと、FILTER がオフになります。

SEND

内蔵エフェクターのエフェクト音（残響系）を、マスターの音声に入力します。

SEND セクション



1. SEND ボタン

2. TAP ボタン

BPMの測定方法(AUTO/TAP)を選択します。選択した測定方式が本体表示部に表示されます。

- AUTO（自動）モード：マスター音声のBPMを自動測定します（測定範囲は70～180）。
- TAP（手動入力）モード：ボタンを指で複数回たたいて、手動でBPMを入力します。
- 本機の電源をオンにしたときは、自動的にAUTOモードに設定されます。

3. 本体表示部

4. TIME ノブ

5. SIZE/FB ノブ

6. PARAMETER ノブ

7. SEND ノブ

選択したエフェクトのSENDレベルを調節します。

8. MASTER MIX LEVEL フェーダー

マスター音声に入力するSENDのエフェクト音の音量を調節します。

本体表示部

- 音声の入出力や操作しない状態が5分続いた場合は、自動的に本体表示部の明るさ（輝度）が暗くなります。音声の入出力または操作を行うと、元の明るさに戻ります。



1. AUTO/TAP

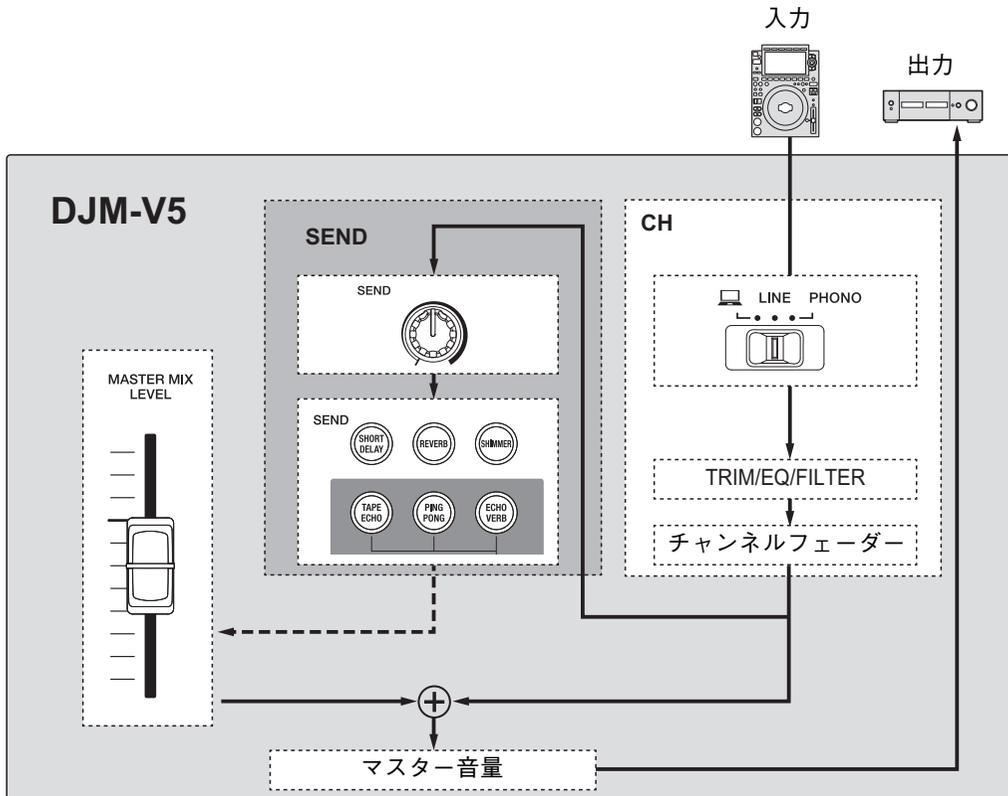
BPM測定モードが自動モードのときは [AUTO] が、手動入力モードのときは [TAP] が表示されます。

- 自動モードでBPMを測定できないときは、BPM値の表示が点滅します。その場合は、[TAP] ボタンを押してTAP（手動入力）モードを選択してください。

2. BPM表示

マスター音声にエフェクト音を入力する

内蔵エフェクターのエフェクト音を、マスター音声に入力します。



⇒ [「SENDの種類と設定方法」](#) (44 ページ)

- 1 **[SEND]** ボタンを押して、使用するエフェクトを選択する
- 2 **[SIZE/FB]** ノブを回して、エフェクトの量的パラメーターを調整する
- 3 **[TIME]** ノブを回して、エフェクトの時間的パラメーターを調整する
- 4 **[PARAMETER]** ノブを回して、エフェクト音の音色を調節する

- 5 **[MASTER MIX LEVEL]**フェーダーをスライドして、エフェクト音の音量を調節する
- 6 **[SEND]**ノブを回して、エフェクトの**SEND**レベルを調節する
 - 点滅している**[SEND]**ボタンを押すと、SENDがオフになります。

BPMを手動で設定する

- 1 再生中の音声の拍に合わせて、**[TAP]**ボタンを2回以上指でたたく
[TAP]ボタンを指でたたいた間隔の平均値がBPMに設定されます。
 - 設定できるBPMの範囲は40～999です。

SENDの種類と設定方法

ノブの操作で、SEND（内蔵エフェクター）の下記の内容を設定できます。

- 選択されている[SEND]ボタンが点滅します。

エフェクト/ノブ	説明
SHORT DELAY	短い間隔のディレイ音を加えます。
• TIME :	ノブを右に回すほど、ディレイタイムが長くなります。
• SIZE/FB :	ノブを右に回すほど、フィードバックが増えます。
• PARAMETER :	フィルターのカットオフ周波数を設定します。
REVERB	残響音を加えます。
• TIME :	ノブを右に回すほど、残響時間が長くなります。
• SIZE/FB :	ノブを右に回すほど、ルームサイズが大きくなります。
• PARAMETER :	フィルターのカットオフ周波数を設定します。
SHIMMER	きらめきのある残響音を加えます。
• TIME :	ノブを右に回すほど、残響時間が長くなります。
• SIZE/FB :	ノブを右に回すほど、きらめきの効果が大きくなります。
• PARAMETER :	フィルターのカットオフ周波数を設定します。
TAPE ECHO	揺らぎや飽和感のあるディレイ音を加えます。
• TIME* :	設定された BPM に対して、1/16 ～ 1 拍の範囲でディレイタイムを設定します。
• SIZE/FB :	ノブを右に回すほど、フィードバックが増えます。
• PARAMETER :	フィルターのカットオフ周波数を設定します。

エフェクト/ノブ	説明
PING PONG	L/R を行き来して交互に聞こえるディレイ音を加えます。
• TIME* :	設定された BPM に対して、1/16 ～ 1 拍の範囲でディレイタイムを設定します。
• SIZE/FB :	ノブを右に回すほど、フィードバックが増えます。
• PARAMETER :	L/R のディレイタイムのバランスを設定します。
ECHO VERB	クリアなディレイ音と残響音を加えます。
• TIME* :	設定された BPM に対して、1/16 ～ 1 拍の範囲でディレイタイムと残響時間を設定します。
• SIZE/FB :	ノブを右に回すほど、ディレイ音のフィードバックが増えます。
• PARAMETER :	ディレイ音と残響音のバランスを設定します。

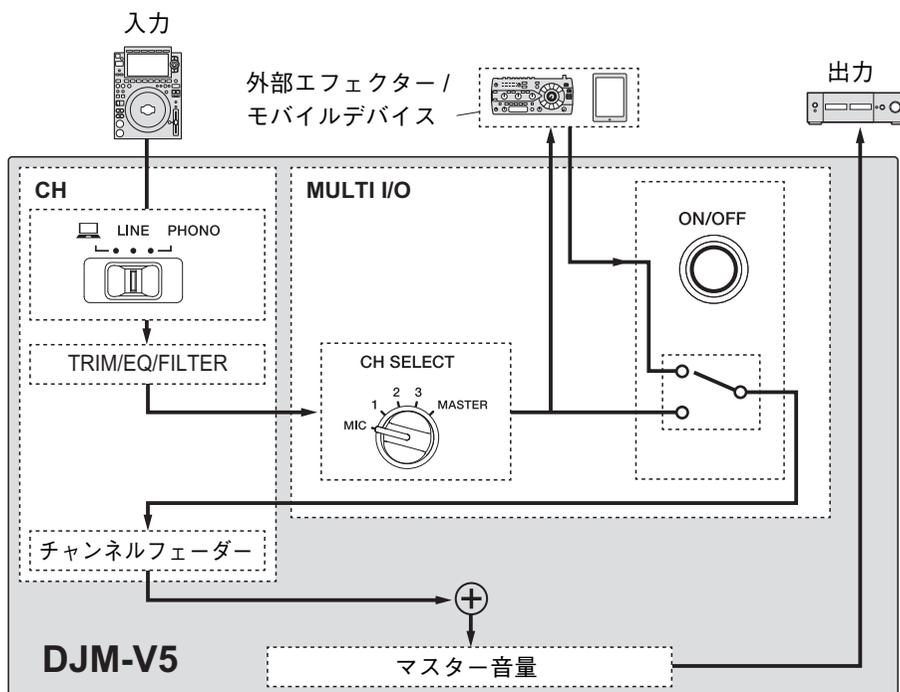
* ノブまわりに表示されている拍の倍率に設定すると、操作時にクリック感を得られます。

MULTI I/O

外部エフェクターまたはモバイルデバイス（エフェクトアプリケーション）のエフェクト音を各チャンネルやマスターの音声に入力します。

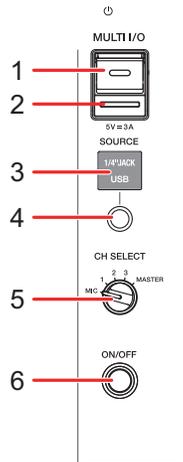
以下の方式に対応しています。

－ **INSERT方式**：原音とエフェクト音を入れ替えます。



⇒ 接続方法：「MULTI I/Oを使う」（26 ページ）

MULTI I/O セクション



1. USB 端子

モバイルデバイスまたは対応デバイスを接続します。

- USB Type-C 端子を採用しているモバイルデバイスを接続してください。Lightning 端子を採用しているモバイルデバイスの接続には対応していません。

2. USB 接続インジケータ

対応デバイスが接続されているときに点灯します。非対応デバイスが接続されているときは点滅します。

3. SOURCE インジケータ

[SOURCE] 切替えボタンで選択されているエフェクターを表示します。

4. SOURCE 切替えボタン

使用するエフェクターを選択します。

- [USB] : USB 端子に接続されているデバイスを使用します。
- [1/4"JACK] : [MULTI I/O, RETURN] 端子に接続されている外部エフェクターを使用します。

5. CH SELECT スイッチ

MULTI I/O のエフェクト音を加えるチャンネルを選択します。

6. ON/OFF ボタン

MULTI I/O のオン/オフを切り替えます。オンのときにボタンが点滅します。

MULTI I/O を使う

- 1 **[SOURCE]** 切替えボタンを押して、使用するエフェクターを選択する
- 2 **[CH SELECT]** スイッチを回して、**MULTI I/O** のエフェクトを加えるチャンネルを選択する
- 3 **[ON/OFF]** ボタンを押して、**MULTI I/O** をオンにする
 - もう一度**[ON/OFF]** ボタンを押すと、**MULTI I/O** がオフになります。
 - 本機と外部エフェクターが接続されていないときは、**MULTI I/O** は強制的にオフになります。

USB/MIDI

MIDI対応のソフトウェアをインストールしたPC/MacやモバイルデバイスをUSBケーブルを使って接続すると、本機からMIDI対応ソフトウェアを操作できます。

- 本機のMIDIメッセージについては、下記のサイトを参照してください。

alphatheta.com/support/Japan/

- MIDI出力する場合は、MY SETTINGSの[MIDI]でMIDIチャンネルを設定してください。
⇒ 「MIDI*1」 (55 ページ)
- MIDIタイミングクロックは常時送信されます。

MIDI対応ソフトウェアを操作する

- お使いのPC/Macやモバイルデバイスに、あらかじめMIDI対応ソフトウェアをインストールし、オーディオとMIDIの設定を行ってください。

1 本機とPC/Macまたはモバイルデバイスを接続する

- PC/Macは[] (USB)端子に、モバイルデバイスは[MULTI I/O]セクションのUSB端子に接続します。
⇒ 「入力端子に接続する」 (23 ページ)
⇒ 「MULTI I/Oセクション」 (47 ページ)

2 MIDI対応ソフトウェアを起動する

MIDI対応ソフトウェアとの通信を開始します。

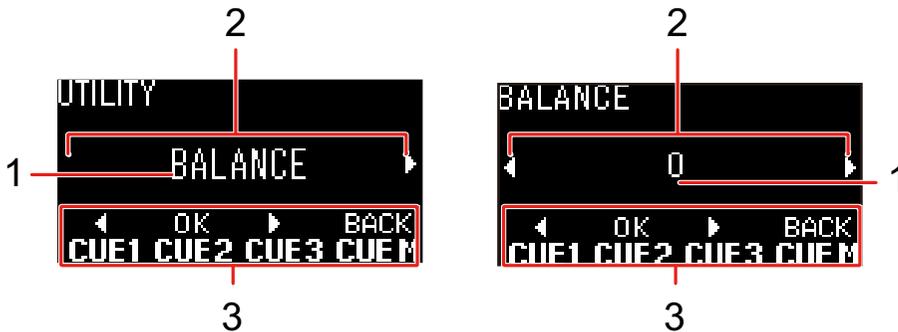
設定

UTILITY設定で本機の設定を変更します。また、あらかじめMY SETTINGS（本機の機能設定）を記録メディアに保存しておく、DJ交代時などに設定を読み込んで、一括で本機に適用できます。

設定を変更する

1 通常画面で、MASTERの[CUE (UTILITY)]ボタンを長押しする

[UTILITY]画面が表示されます。



1. 設定項目/現在の設定値表示
2. ◀ (CH1の[CUE]ボタンを押してページ戻し) / ▶ (CH3の[CUE]ボタンを押してページ送り)
3. 操作ボタンの説明

2 CH1/CH3の[CUE]ボタンを押して設定項目を表示し、CH2の[CUE]ボタンを押す

設定項目が選択されます。

⇒ [「UTILITY設定項目」\(51ページ\)](#)

3 CH1/CH3の[CUE]ボタンを押して設定を変更し、CH2の[CUE]ボタンを押す

設定が確定して、設定項目表示に戻ります。

- 設定変更をキャンセルするには、MASTER の[CUE (UTILITY)] ボタンを押します。設定項目表示に戻ります。

4 MASTER の[CUE (UTILITY)] ボタンを押す

[UTILITY]画面を閉じて通常画面に戻ります。

UTILITY 設定項目

設定項目	説明
BALANCE* ¹	出力バランスを調整します。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定値：L128～0*²～R127
MASTER OUT* ¹	
ATT.	[MASTER] 端子から出力する音声の減衰レベルを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定値：-12dB、-9dB、-6dB、-3dB、0dB*²
MONO/STEREO	[MASTER] 端子から出力する音声の出力方法（モノラル/ステレオ）を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定値：MONO、STEREO*²
BOOTH OUT* ¹	
ATT.	[BOOTH] 端子から出力する音声の減衰レベルを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定値：-12dB、-9dB、-6dB、-3dB、0dB*²
MUTE WHEN MIC ON	マイクがオンのときに [BOOTH] 端子から出力する音声をミュートするかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 設定値：OFF*²、ON

設定項目	説明
MONO/STEREO	<p>[BOOTH] 端子から出力する音声の出力方法（モノラル/ステレオ）を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値： MONO、STEREO^{*2}
REC OUT ^{*1}	
SOURCE	<p>[REC OUT] 端子から出力する音声の種類を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値： REC w/ MIC^{*2}、REC w/o MIC、MASTER [REC w/ MIC] は、[MASTER LEVEL] ノブの音量調節前のマスター音声とマイク音声を出力します。 [REC w/o MIC] は、[MASTER LEVEL] ノブの音量調節前のマスター音声を出力します。 [MASTER] は、[MASTER] 出力端子と同一の音声を出力します。
MIC TO BOOTH ^{*1}	
LEVEL	<p>[BOOTH] 端子から出力する音声に入力するマイクの音量を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値： OFF、-18dB、-15dB、-12dB、-9dB、-6dB、-3dB、0dB^{*2}
POWER MANAGEMENT ^{*1}	<p>パワーマネージメント機能を設定します。 ⇒ 「パワーマネージメント機能」 (53 ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値： OFF、ON^{*2}
SONICLINK ^{*1}	<p>SonicLink 機能を設定します。 ⇒ 「SonicLink ヘッドホンで音声をモニターする」 (34 ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定値： OFF、ON^{*2}

設定項目	説明
OWNER SETTING	
SAVE	<p>UTILITY 設定と MY SETTINGS 設定を [OWNER SETTING] として、本機に保存します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [OWNER SETTING] に保存した MY SETTINGS 設定は、本機の電源をオンにしたときの初期値になります。
LOAD	<p>本機に保存した [OWNER SETTING] (UTILITY 設定と MY SETTINGS 設定) を呼び出します。</p>
FIRMWARE VER.	<p>本機のソフトウェアバージョンを表示します。</p>

*1 **[OWNER SETTING]** の **[SAVE]** を実行すると、設定が本機に保存されます。

*2 お買い上げ時の設定

パワーマネージメント機能

[POWER MANAGEMENT] を **[ON]** に設定しているときに、以下の状態で本機を操作せずに20分経過すると、自動的にオフモードになります。

- 本機各チャンネルに音声信号が入力されていない。
- PRO DJ LINK 接続していない。

オフモードになると、**[TALKOVER (WAKE UP)]** ボタンが点灯します。

[TALKOVER (WAKE UP)] ボタンを押すと、オフモードを解除できます。

- 本機は、パワーマネージメント機能を **[ON]** に設定して出荷しています。
- パワーマネージメント機能を使用しないときは **[OFF]** に設定してください。
- パワーマネージメント機能を **[OFF]** に設定すると、より多くの電力を消費します。

MY SETTINGS 設定項目

設定項目	説明
LOAD	記録メディアから MY SETTINGS 情報を読み出します。 ⇒ 「記録メディアから MY SETTINGS を読み込む」 (57 ページ)
SAVE	MY SETTINGS 情報を記録メディアに保存します。 ⇒ 「MY SETTINGS を記録メディアに保存する」 (56 ページ)
HEADPHONES^{*1}	
MONO SPLIT	[HEADPHONES] の出力音声 (MONO SPLIT/ ステレオ) を設定します。 • 設定値: STEREO^{*2} 、 MONO SPLIT
MIC^{*1}	
MIC LOW CUT	マイク音声の低音域カット機能を設定します。 • 設定値: OFF 、 ON (for MC)^{*2}
TALKOVER MODE	トークオーバーモードを設定します。 • 設定値: ADVANCED^{*2} 、 NORMAL • [ADVANCED] は、[LEVEL] ノブの設定値にしたがって、[MIC] チャンネル以外の音声の中音域だけを減衰して出力します。 • [NORMAL] は、[LEVEL] ノブの設定値にしたがって、[MIC] チャンネル以外の音声を減衰して出力します。
TALKOVER LEVEL	トークオーバーの音声減衰レベルを設定します。 • 設定値: -∞dB 、 -24dB 、 -18dB^{*2} 、 -12dB 、 -6dB

設定項目	説明
MIDI^{*1}	
CH	MIDI チャンネルを設定します。 • 設定値：1 ^{*2} ～16
BUTTON TYPE	MIDI 信号の送信方法を設定します。 • 設定値：TOGGLE ^{*2} 、TRIGGER
BRIGHTNESS^{*1}	
DISPLAY	本体表示部の輝度を設定します。 • 設定値：1～5 ^{*2}
INDICATOR	LED の輝度を設定します。 • 設定値：1～3 ^{*2}

*1 [OWNER SETTING]の[SAVE]を実行すると、設定が本機に保存されます。

*2 お買い上げ時の設定

MY SETTINGS を記録メディアに保存する

MY SETTINGS の設定を、本機に接続した記録メディアに保存します。

- PRO DJ LINK で接続しているほかのマルチプレーヤーにセットされている記録メディアや rekordbox にも保存できます。

1 記録メディアを USB 端子に接続する

⇒ [「MULTI I/O セクション」](#) (47 ページ)

2 通常画面で、MASTER の [CUE (UTILITY)] ボタンを長押しする

[UTILITY] 画面が表示されます。

3 CH1/CH3 の [CUE] ボタンを押して [MY SETTINGS] の [SAVE] を選択し、CH2 の [CUE] ボタンを押す

4 CH1/CH3 の [CUE] ボタンを押して設定を保存する記録メディアを選択し、CH2 の [CUE] ボタンを押す

MY SETTINGS が記録メディアに保存されます。

- 操作をキャンセルするには、MASTER の [CUE (UTILITY)] ボタンを押します。設定項目表示に戻ります。

5 MASTER の [CUE (UTILITY)] ボタンを押す

[UTILITY] 画面を閉じて通常画面に戻ります。

記録メディアから MY SETTINGS を読み込む

記録メディアに保存されている MY SETTINGS の設定を、本機に読み込みます。

- PRO DJ LINK で接続しているほかのマルチプレーヤーにセットされている記録メディアや rekordbox から読み込むこともできます。

1 記録メディアを USB 端子に接続する

⇒ [MULTI I/O セクション] (47 ページ)

2 通常画面で、MASTER の [CUE (UTILITY)] ボタンを長押しする

[UTILITY]画面が表示されます。

3 CH1/CH3の[CUE]ボタンを押して[MY SETTINGS]の[LOAD]を選択し、CH2の[CUE]ボタンを押す

4 CH1/CH3の[CUE]ボタンを押して設定を読み込む記録メディアを選択し、CH2の[CUE]ボタンを押す

MY SETTINGS を本機に読み込みます。

- 操作をキャンセルするには、MASTER の[CUE (UTILITY)]ボタンを押します。設定項目表示に戻ります。

5 MASTER の [CUE (UTILITY)] ボタンを押す

[UTILITY]画面を閉じて通常画面に戻ります。

初期設定に戻す

- 1 [TALKOVER (WAKE UP)] ボタンを押しながら、[⏻] ボタンを押す
[FACTORY RESET] 画面が表示されます。



- 2 CH1/CH3 の [CUE] ボタンを押して [YES] を選択し、CH2 の [CUE] ボタンを押す
- 3 [⏻] ボタンを押して、電源をオフにする
お買い上げ時の設定に戻ります。

スペック

仕様

一般

電源	AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力	31 W
待機時消費電力 (OFF 時)	0.3 W
本体質量	8 kg
最大外形寸法	(W × D × H) 302.0 × 437.5 × 107.9 mm
許容動作温度	+5 °C ~ +35 °C
許容動作湿度	5 % ~ 85 % (結露のないこと)

オーディオ部

サンプリングレート	96 kHz
MASTER, BOOTH, REC, SEND D/ A コンバーター	32bit
CH, RETURN 入力 A/D コンバー ター	32bit
その他の A/D, D/A コンバーター	24bit
周波数特性	
LINE	20 Hz ~ 40 kHz
S/N 比 (定格出力時、A-WEIGHTED)	
USB	110 dB

オーディオ部

PHONO	88 dB
-------	-------

LINE	105 dB
------	--------

MIC	79 dB
-----	-------

全高調波歪率 (LINE — MASTER、 20 Hz ~ 40 kHzBW)	0.005 %
---	---------

基準入力レベル / 入力インピーダンス

PHONO	-52 dBu/47 kΩ
-------	---------------

LINE	-12 dBu/47 kΩ
------	---------------

MIC	-57 dBu/3.5 kΩ
-----	----------------

RETURN	-12 dBu/47 kΩ
--------	---------------

最大入力レベル

PHONO	-17.8 dBu
-------	-----------

LINE	+15 dBu
------	---------

MIC	+2 dBu
-----	--------

RETURN	+12 dBu
--------	---------

基準出力レベル / 負荷インピーダンス / 出力インピーダンス

MASTER	+6 dBu/10 kΩ/360 Ω
--------	--------------------

REC OUT	-8 dBu/10 kΩ/700 Ω
---------	--------------------

BOOTH	+6 dBu/10 kΩ/360 Ω
-------	--------------------

SEND	-12 dBu/10 kΩ/700 Ω
------	---------------------

PHONES	+8 dBu/32 Ω/1 Ω 以下
--------	--------------------

オーディオ部

定格出力レベル / 負荷インピーダンス

MASTER	+25 dBu/10 kΩ
BOOTH	+25 dBu/10 kΩ

クロストーク

LINE	82 dB
------	-------

チャンネルイコライザー特性

HI	-∞ dB ~ +6 dB (3 kHz)
HI MID	-26 dB ~ +6 dB (1.2 kHz)
LOW MID	-26 dB ~ +6 dB (400 Hz)
LOW	-∞ dB ~ +6 dB (200 Hz)

マイクイコライザー特性

HI	-12 dB ~ +12 dB (10 kHz)
LOW	-12 dB ~ +12 dB (100 Hz)

BOOTH MONITOR イコライザー特性

HI	-12 dB ~ +6 dB (3 kHz)
LOW	-12 dB ~ +6 dB (300 Hz)

入力 / 出力端子

PHONO 入力端子

RCA ピンジャック	3 系統
------------	------

入力 / 出力端子

LINE 入力端子

RCA ピンジャック 3 系統

MIC 入力端子 (XLR/TRS)

XLR コネクター&1/4"TRS
ジャック 1 系統

RETURN 入力端子 (TS)

1/4" TS ジャック 1 系統

MASTER 出力端子

XLR コネクター 1 系統

BOOTH 出力端子 (TRS)

1/4" TRS ジャック 1 系統

REC OUT 出力端子

RCA ピンジャック 1 系統

SEND 出力端子 (TS)

1/4" TS ジャック 1 系統

PHONES 出力端子

1/4" ステレオジャック 1 系統

3.5 mm ステレオミニ
ジャック 1 系統

USB 端子

USB Type-C (MULTI I/O) 1 系統

入力 / 出力端子

電源供給 5 V/3 A 以下

USB Type-C (PC/Mac) 1 系統

LINK 端子

LAN 端子 (100BASE-TX) 1 系統

SonicLink 部

最大通信距離 見通しの良い状態で約 5 m*

使用周波数帯域 2.4 GHz 帯

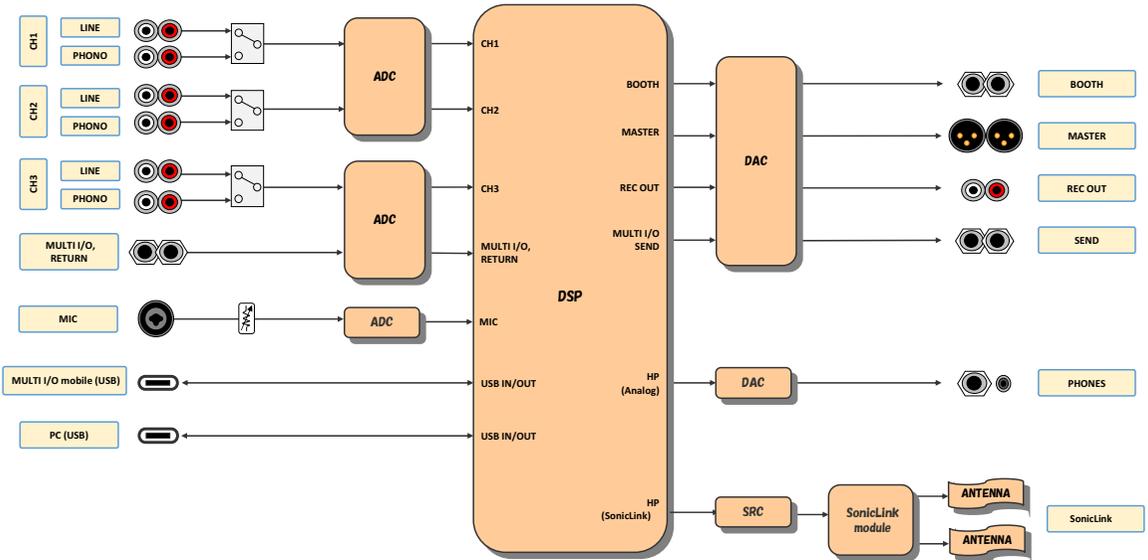
* 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。

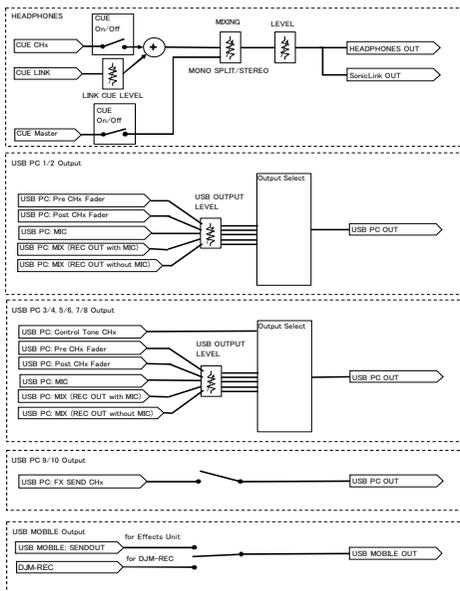
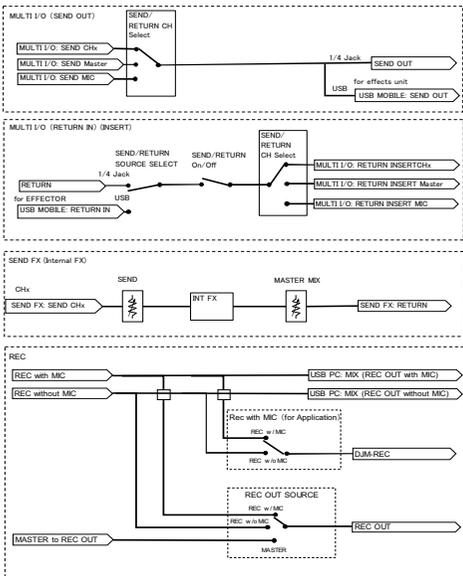
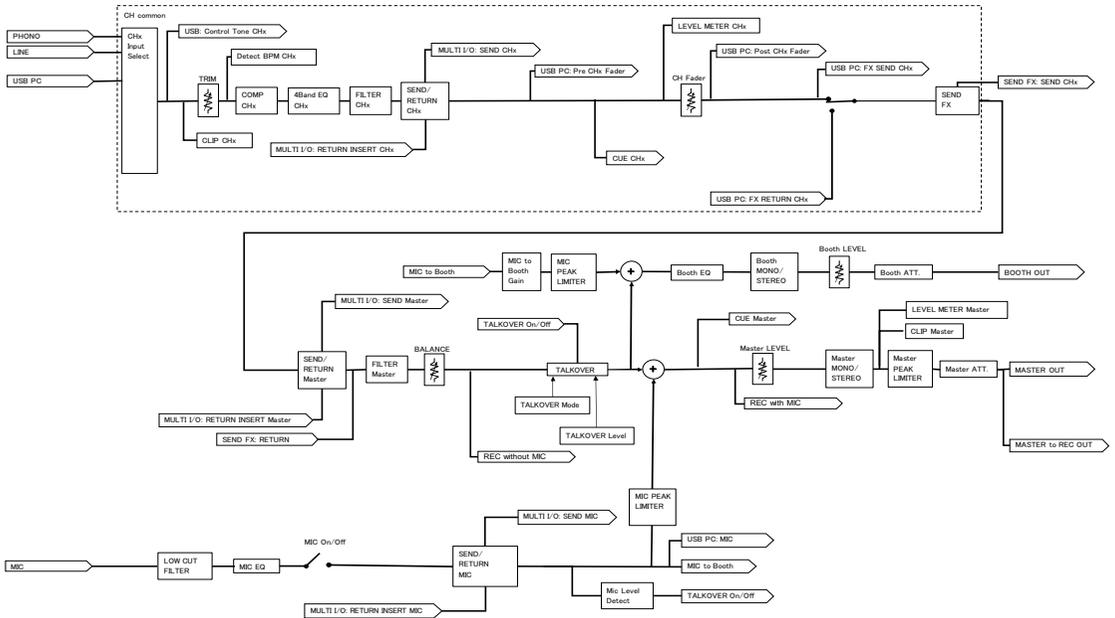
ヘッドホンタッチエリア

対応規格 ISO/IEC 15693 (リーダー)

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ブロックダイアグラム





その他

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら、下記の項目およびAlphaTheta サポートページから [DJM-V5] の [よくある質問 (FAQ)] を確認してください。

alphatheta.com/support/Japan/

- 本機と接続している機器も確認してください。
- 電源を入れなおすと正常に動作することがあります。

それでも正常に動作しないときは、「使用上のご注意」をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。

電源

❖ 本機の電源が入らない

- 電源コードが正しく接続されているか確認してください。

音声出力

❖ 音がでない、音が小さい

- 入力切替えスイッチが正しく設定されているか確認してください。
- 接続ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 端子やプラグの汚れを確認し、汚れを拭き取ってから接続してください。
- UTILITY 設定で、[MASTER OUT] の [ATT.] の設定を変更してください。

❖ 音がひずむ

マスター音声：

- [MASTER] セクションの [LEVEL] ノブで、マスターレベルインジケータの 0 dB 付近がピークレベルで点灯するように調整してください。
- UTILITY 設定で、[MASTER OUT] の [ATT.] の設定を [-3 dB] ~ [-12 dB] に設定してください。

チャンネル入力音声：

- [TRIM] ノブで、チャンネルレベルインジケータの 0 dB 付近がピークレベルで点灯するように調整してください。

エフェクト

❖ SEND が効かない

- [SEND] ノブが適切な位置に設定されているか確認してください。

❖ SEND がマスター音声に入力されない

- [SEND] セクションの [MASTER MIX LEVEL] フェーダーが適切な位置に設定されているか確認してください。

❖ [TIME] ノブの操作時にクリック感がない

- [SEND] ボタンで、[TAPE ECHO]、[ECHO VERB]、または [PINGPONG] が設定されているときに、クリック感が有効になります。

❖ [MULTI I/O, SEND] 端子に接続されている外部エフェクターまたはモバイルデバイスが効かない

- USB Type-C 端子を採用しているモバイルデバイスを接続してください。Lightning 端子を採用しているモバイルデバイスの接続には対応していません。
- [CH SELECT] スイッチで、エフェクトを加えるチャンネルを選択してください。
- [MULTI I/O] セクションの [ON/OFF] ボタンを押して、MULTI I/O をオンにしてください。
- 外部エフェクターが [MULTI I/O, SEND] 端子と [MULTI I/O, RETURN] 端子に正しく接続されているか確認してください。
- [MULTI I/O] セクションの USB 端子にモバイルデバイスが正しく接続されているか確認してください。また、モバイルデバイス上で対応アプリを起動してください。
- [SOURCE] 切替えボタンが正しく設定されているか確認してください。

❖ 外部エフェクターの音声が歪む

- 外部エフェクターの音量が適切に設定されているか確認してください。

❖ テンポ (BPM) が測定できない、または測定値がおかしい

- チャンネルレベルインジケータの 0 dB 付近がピークレベルで点灯するように [TRIM] ノブを調整してください。
- 楽曲によってはテンポ (BPM) を測定できないことがあります。[TAP] ボタンを使って手動で設定してください。

❖ 測定したテンポ (BPM) の値が CD の記載値と異なる

- BPM の測定法が異なるため、異なる値を示すことがあります。

MIDI

❖ MIDIコントロールできない

- 本機からソフトウェアを操作するときは、本機のMIDIメッセージをお使いのソフトウェアにアサインしてください。詳細については、お使いのソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

接続

❖ PC/Macに接続しても本機が認識されない

- お使いのPC/Macに専用ソフトウェアをインストールしてください。インストール済みのときは、再度インストールしてください。

❖ モバイルデバイスに接続しても本機が認識されない

- USB Type-C端子を採用しているモバイルデバイスを接続してください。Lightning端子を採用しているモバイルデバイスの接続には対応していません。

❖ PC/Macの音声の本機から出力されない

- PC/Macが正しく接続されているか確認してください（USBハブを使用せずに、本機に直接接続してください）。
- 音声出力デバイス設定で、本機を選択してください。詳細については、お使いのソフトウェアの取扱説明書を参照してください。
- 入力切替えスイッチを[]に設定してください。

❖ ターンテーブルを本機の[PHONO]端子に接続すると音が歪む、 [TRIM]ノブを回してもチャンネルレベルインジケータの点灯が 変わらない

- 接続しているターンテーブルが、フォノイコライザー内蔵かどうか確認してください（フォノイコライザー内蔵のターンテーブルは[LINE]端子に接続してください）。
- ターンテーブルにPHONO/LINE切替えスイッチがある場合は、PHONOに切り替えてください。
- ターンテーブルと本機の間接続されているPC/Mac用のオーディオインターフェイスがラインレベルのときは、[LINE]端子に接続してください。

クリーニングについて

- 画面が汚れたときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。
- 有機溶剤・酸・アルカリ類は使用しないでください。

商標および登録商標について

- rekordbox™は、AlphaTheta株式会社の商標または登録商標です。
- PRO DJ LINK™は、AlphaTheta株式会社の商標または登録商標です。
- iPad、iPadOS、Mac、macOS および Finder は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH の商標または登録商標です。
- SonicLink™は、AlphaTheta株式会社の商標または登録商標です。
- Android は Google LLC の商標です。
- iOS は、米国その他の国における Cisco の商標または登録商標です。

その他記載されている商品名、技術名および会社名などは、各社の商標または登録商標です。

MP3の利用について

本製品は非営利的使用のためのみにライセンスされています。営利的目的での（収益の発生するような）、実際の放送（地上波放送・衛星放送・有線放送・あるいは他のメディアを利用した放送）、インターネットやイントラネット（企業内ネット）あるいは他のネットワークを利用した放送・ストリーミング、またその他の電子的情報を提供するシステム（音楽の有料配信など）のためにはライセンスされていません。このような使用には個別にライセンスを取得する必要があります。詳しくは、<http://www.mp3licensing.com> をご参照ください。

ソフトウェアライセンス

ここでは、本機に使われているソフトウェアの利用許諾（ライセンス）について記載しています。正確な内容を保持するため、原文（英語）を記載しています。

Copyright © 2010 Texas Instruments Incorporated - <http://www.ti.com/>

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither the name of Texas Instruments Incorporated nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS «AS IS» AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Apache

Copyright (c) 2009-2019 ARM Limited. All rights reserved.

SPDX-License-Identifier: Apache-2.0

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the License); you may not use this file except in compliance with the License.

You may obtain a copy of the License at

www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an AS IS BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.

See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

The curl License

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1996 - 2025, Daniel Stenberg, daniel@haxx.se, and many contributors, see the THANKS file.

All rights reserved.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

```
=====
libc++ License
=====
```

The libc++ library is dual licensed under both the University of Illinois "BSD-Like" license and the MIT license.

As a user of this code you may choose to use it under either license. As a contributor, you agree to allow your code to be used under both.

Full text of the relevant licenses is included below.

=====

University of Illinois/NCSA
Open Source License

Copyright (c) 2009-2017 by the contributors listed in CREDITS.TXT

All rights reserved.

Developed by:

LLVM Team

University of Illinois at Urbana-Champaign

<http://llvm.org>

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal with the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimers.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimers in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * Neither the names of the LLVM Team, University of Illinois at Urbana-Champaign, nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this Software without specific prior written permission.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE CONTRIBUTORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS WITH THE SOFTWARE.

Copyright (c) 2009-2014 by the contributors listed in CREDITS.TXT

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

著作権

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- CDなどから録音される音楽は、各国の著作権法ならびに国際条約で保護されています。また、録音した者自身が、それを合法的に使用するうえでのすべての責任を負います。
- インターネットなどからダウンロードされる音楽を取り扱う際は、ダウンロードした者自身が、ダウンロードサイトとの契約に則ってそれを使用するうえでのすべての責任を負います。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

© 2025 AlphaTheta株式会社 禁無断転載
<DRI1973-A>